

## 社員選挙 立候補者届出状況

受付番号	氏名	所属（※立候補日現在）	立候補所信
1	齋藤充生	ヘルスヴィジランス研究会	微力ながら学会の発展に尽くしたいと思います。
2	近藤昌夫	大阪大学大学院 薬学研究科 附属創薬センター 医薬品・医療機器規制科学研究室	なし
3	有賀 淳	東京女子医科大学 先端生命医科学研究所	東京女子医科大学早稲田大学共同大学院にて医療レギュラトリーサイエンスの学問体系の確立と人材育成に努めています。
4	田邊 思帆里	国立医薬品食品衛生研究所	レギュラトリーサイエンスの発展に尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくご願ひ申し上げます。
5	中江 大	東京農業大学 応用生物科学部食品安全健康学科	機会を与えていただければ、経験と専門性を活かして、一般社団法人レギュラトリーサイエンス学会の活動に貢献したいと考えます。
6	永井 純正	東京大学医学部附属病院 トランスレーショナルリサーチセンター	PMDA在職中から現在も抗癌剤のコンパニオン診断薬の薬事規制に携わっており、特に血液・腫瘍内科を専門としております。これまでも学術大会での講演や評議員として本学会に寄与してまいりましたが、引き続き薬事規制とTRIに精通する臨床医として本学会に貢献していく所存です。
7	橘 敬祐	大阪大学大学院 薬学研究科 附属創薬センター 医薬品・医療機器規制科学研究室	なし
8	諫田 泰成	国立医薬品食品衛生研究所・薬理部	私は、ヒトiPS細胞技術を活用したレギュラトリーサイエンス研究に従事しております。より安全でより有効な医薬品を一刻も早く社会に還元するために、産官学での密な連携のもと、レギュラトリーサイエンス研究を推進することは非常に重要であると考えております。引き続き、微力ながら本学会において社員（評議員）として貢献できればと思っており、立候補いたします。何卒よろしくご願ひ申し上げます。
9	前田 英紀	明治薬科大学	これまで製薬企業において、医薬品開発、市販後、メディカルアフェアーズの活動に携わってきました。現在、大学薬学部においてレギュラトリーサイエンスの教育・研究を行っています。レギュラトリーサイエンスの推進及び普及に貢献したいと考えています。

## 社員選挙 立候補者届出状況

10	荒川 義弘	筑波大学医学医療系	なし
11	細木るみこ	立命館大学薬学部	レギュラトリーサイエンスの発展に、微力ではございますが尽力したいと思います。
12	鈴木 啓介	国立長寿医療研究センター 治験・臨床研究推進センター	認知症や神経難病の臨床研究に関与してきた経験を活かして、本邦におけるレギュラトリーサイエンスの発展に寄与できればと考えております。どうぞ宜しくお願いいたします。
13	菅谷 勉	ノーベルファーマ株式会社	社会科学の観点から、微力ながら、レギュラトリーサイエンス(RS)の進化及びRS学会のさらなる発展、並びにアカデミア及びバイオテック発のイノベーションを起点としたオールジャパン創薬の一層の推進に寄与したい。
14	宮崎 生子	昭和薬科大学 社会薬学研究室	アカデミアの立場から、「レギュラトリーサイエンス」という学問領域の更なる進歩と発展に、微力ながら貢献させて頂きたいと思っております。
15	西川浩樹	兵庫医科大学病院 臨床研究支援センター・内科学肝胆膵科 准教授	現在私は大学病院の医師として診療・研究・教育に従事する傍ら、特定臨床研究のプロジェクトマネジメントやその他の臨床研究の管理・運営等もしています。独立行政法人医薬品・医療機器総合機構(PMDA)に勤務歴もあり、PMDA専門委員として現在も定期的にPMDAに通っています。「規制を科学する」とは本邦の医療の根幹をなすものであり、その主旨にかなった本学会の発展に少しでも貢献したいと考えています。よろしく申し上げます。
16	桐野 豊	徳島文理大学	臨床現場の薬剤師に本学会の活動を認識してもらい、医薬品の適正使用におけるレギュラトリーサイエンスの重要性を知ってもらいたい。その実現に資するため。
17	成川 衛	北里大学	レギュラトリーサイエンスの発展に向けて努力いたします。
18	山根 隆志	国立研究開発法人産業技術総合研究所 名誉リサーチャー/客員研究員	産業技術総合研究所における人工心臓をはじめとする医療機器の技術開発経験と、医薬品医療機器総合機構における医療機器審査経験、また神戸大学工学研究科における血液浄化の研究と医療機器に関する人材教育経験を生かし、実用化をめざす医療機器の研究開発とレギュラトリーサイエンス構築をライフワークとして、学会における人材育成、産業支援に尽力したいと思います。
19	岩崎 清隆	早稲田大学 理工学術院	研究面では、先進的医療機器開発の迅速化と市販後の安全対策の拡充に資する、実臨床を模した先進的非臨床試験法の開発・規格策定等に引き続き貢献していく。教育面では、レギュラトリーサイエンス分野の教育と研究を実践している東京女子医科大学と早稲田大学の共同大学院博士課程において、産官学の人材育成に注力していく。本学会の先生方、関係諸氏とともにレギュラトリーサイエンスの学問の発展と社会実装に取り組んでいく。

## 社員選挙 立候補者届出状況

20	戸高 浩司	九州大学病院 ARO次世代医療センター	臨床医、基礎研究者、PMDA審査官OBであり橋渡し拠点・臨床研究中核病院 教授・責任者としての豊富な経験を生かして、社会と調和する規制科学の推進など本学会の発展に寄与する所存です。
21	柏谷 祐司	武田薬品工業株式会社	なし
22	渡邊 伸一	帝京平成大学	なし
23	久津見 弘	滋賀医科大学 臨床研究開発センター	20年以上消化器内科医として臨床ならびに医療機器開発に携わった後、臨床担当スペシャリストとしてPMDAで医療機器ならびに医薬品の審査等を2010年から2年余り経験した。2015年から、大学で臨床研究の支援をする立場で業務をしている。この経験を活かし本学会のために尽力するとともに、医師の本学会会員を増やしていきたい。
24	池田 孝則	製薬協 医薬品評価委員会 基礎研究部会 (MSD株式会社 安全性研究室)	なし
25	渡邊 裕司	浜松医科大学	なし
26	松村 一	東京医科大学 形成外科学分野、総合情報部	医薬品、医療機器等の分野での、その品質・安全性・有効性を確保するために、今後も臨床系外科医として、的確に評価、予測、判断していきたいと思っております。その結果としてレギュラトリーサイエンスの成果の普及を図ることに尽力します。今後も、これらの活動を発展させ、本学会の発展にも貢献していきたいと思っております。
27	石井 明子	国立医薬品食品衛生研究所 生物薬品部長	国立衛研にて、バイオ医薬品に関するレギュラトリーサイエンス研究に従事しております。科学技術の成果を医薬品として結実させ、社会に迅速かつ的確に還元するため、産官学の連携のもと、レギュラトリーサイエンスに関する学術の進歩と普及を図ることは、非常に重要な課題であると考えます。レギュラトリーサイエンス研究の中核をなす本学会の活動に微力ながら協力させて頂くことで、社会にも貢献したいと考えております。
28	益山 光一	東京薬科大学	なし
29	野口 隆志	昭和大学 薬学部	年齢制限がないなら、何かとご協力させていただきます。
30	菊地 主税	ファイザー株式会社 グローバル薬事部	日本におけるレギュラトリーサイエンスの研究活動の発展に貢献できたら幸いです。
31	永井 尚美	武蔵野大学薬学部薬学科 レギュラトリーサイエンス研究室	なし